

硝子体疾患の手術成績に関する多施設共同レトロスペクティブ研究

今回、京都府立医科大学は、硝子体手術に関する研究「硝子体疾患の手術成績に関する多施設共同レトロスペクティブ研究」を実施いたします。そのため、過去に京都府立医科大学附属病院で硝子体手術を受けられた患者様の診療録を過去にさかのぼって調査させていただきたいと考えています。

研究の目的

高齢化社会に伴い、網膜硝子体疾患、特に手術が必要となる疾患は今後とも増えていくことが予想されます。新しい硝子体手術機械も数多く登場し、その評価のためにはより多くのデータを抽出、検討して更なる成績の向上を目指さなければなりません。これらを自施設だけで行うことは症例数も少なく、十分な症例を集めるための時間を要するため、場合によっては多施設共同研究なども考えております。

研究の方法

・対象となる方について

2007年1月1日から2025年3月31日までの間に、京都府立医科大学眼科で硝子体手術を受けられた患者様が対象となります。

・研究期間： 医学倫理審査委員会承認後から 2025年3月31日

・方法

糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症、網膜動脈閉塞症、網膜剥離、増殖性硝子体網膜症、網膜細動脈瘤、黄斑上膜、黄斑円孔、硝子体黄斑牽引症候群、高度近視、眼内炎、Terson症候群、網膜分離症、未熟児網膜症、急性網膜壊死など様々な網膜硝子体疾患の術後データなどを抽出します。

・研究に用いる試料・情報について

背景情報、既往歴、合併症、蛍光眼底造影検査での網膜血管血流の評価、術前術後視力、術前術後眼圧、Mチャートでの術前術後変視量、光干渉断層計、術前術後の黄斑の形態的変化の評価、OCTアンギオグラフィー、広角眼底写真撮影、眼底自発蛍光での術前術後の網膜の評価、発症からの期間と治療効果の評価等

・外部への試料・情報の提供

以下の施設が資料・情報の提供を受ける可能性があります。その際、提供の際、氏名、生年月日などの患者さんを直ちに特定できる情報は削除し、提供させていただきます。お申し込み眼科クリニック（責任者：院長、本学客員講師 大島佑介）、神戸大学医学部附属病院（責任者：助教 今井尚徳）、あたか眼科（院長： 安宅伸介）、関西医科大学香里病院（責任者：部長・講師 埜本慎）、兵庫県立尼崎総合医療センター（責任者：眼科部長 王英泰）、聖マリアンナ医科大学（責任者：眼科医長 向後二郎）、慈恵医科大学（責任者：准教授 渡辺朗）、神奈川県警友会けいゆう病院（責任者：副部長 鈴木浩太郎）、福井赤十字病院（責任者：部長兼アイセンター長 小堀朗）、神戸大学医学部附属病院（助教： 松井良諭）、医療法人旦龍会町田病院（責任者：副院長 橋田正継）、MIE眼科四日市（責任者：統括院長 大澤俊介）、野本眼科（責任者：院長 野本浩之）、医療法人YT美川眼科（責任者：理事長 西村知久）、はねもと眼科（院長： 埜本宰）、東近江市立能登川病院（責任者：センター長 米田一仁）

・個人情報の取り扱いについて

情報はすべて匿名化され、個人が特定されることはありません。また、研究発表が公表される場合でも個人が特定されることはありません。情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

ご希望があれば、個人情報の保護及び本研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、研究計画及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧することができます。その場合は、下記連絡先までご連絡をお願いします。

研究組織

月曜—金曜 9時から17時

京都府立医科大学眼科外来（075-251-5040）

担当者： 視覚機能再生外科学助教 小嶋健太郎

上記以外の時間帯

京都府立医科大学眼科当直（075-251-5409）

眼科当直から小嶋健太郎へ連絡。